

日本バウハウス協会
講演（対面＋zoom）
ミサワホーム インテリアホール
新宿NSビル16階
2026年6月25日（木）
15:00 - 16:00



小林 昭世

デザイン統合の思想： W.グロピウスとM.ビル

19世紀から20世紀のモダン・デザインに移行するのにバウハウスは貢献しました。その中心になったのがW.グロピウスです。また、第二次対戦後、ニュー・ジャーマン・バウハウスとして発足したウルム造形大学は、モダンデザインから、情報デザイン、社会デザインなどを含むポスト・モダンデザインへの移行に貢献しました。その中心の一人が初代学長になったM.ビルです。グロピウスとビルの役割と横断的で幅広いデザイン思考の特徴をデザインの統合という観点から考えます。

講師 小林 昭世（こばやし あきよ）

武蔵野美術大学名誉教授、日本デザイン学会名誉会員、日本バウハウス協会副理事長
専門は、色彩デザイン、情報デザインを対象とするデザイン方法論・理論、またデザイン史・文化史。デザインの中心的な課題として可視化の共同研究、バウハウスと同時代的なモスクワ・ブフテマス、北欧のモダニズム、ウルム造形大学を対象としたデザインと具体詩の共同研究を行う。
武蔵野美術大学大学院修士課程修了。1992年より2025年まで武蔵野美術大学専任講師、助教授、教授。この間に、日本内外の多大学で非常勤講師を歴任、また講演を行う。共著書訳書に『記号理論の基礎』『意味論的転回』『デザインに哲学は必要か』など。

主催 日本バウハウス協会(お問い合わせ)

<http://nipponbauhaus.jp>

講演は無料 *この講演は日本バウハウス協会総会 第3部の講演を一般に公開するものです。

講演申し込みは2次元コードまたは下記URL

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_-sAUNwtsRs2Vwl8xFKq2SQ

